

環境心理生理運営委員会 議事録 2015 年度 第 2 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2015 年 9 月 29 日 火曜日 (17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 西名大作(主査)、大石洋之(幹事)、辻村壮平(幹事)、
大井尚行(skype 参加)、合掌頭、長野和雄(skype 参加)
槇究、松原斎樹(skype 参加)、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2015 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事次第
2015 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2015 年度 第 2 回環境工学本委員会(2015.09.29)議題
2015 年度大会 若手優秀発表審査結果
環境心理小委員会活動計画案
社会と環境心理小委員会活動計画案
感覚・知覚心理小委員会活動計画案
※2013 年度より、資料に関しては印刷物ではなく、
原則、オンラインストレージサービス機能を用いてデータで配布している。

E. 【報告事項】

1. 2015 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

先回議事録(案)の確認を行った。記載内容について、3 頁目の審議事項 4.の誤植(「全」→「前」)を修正する指摘があったが、その他、内容に関しては指摘・意見が特になかったため、誤植の修正を行ったものを正式な議事録とすることとして承認された。

2. 2015 年度 第 2 回環境工学本委員会の報告

第 2 回環境工学本委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について西名主査から報告があった。第 2 回環境工学本委員会議題がオンラインストレージにデータをアップロードされている。

■ 学術推進委員会の報告

- ・ 2016 年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類の提出依頼があった。
提出締め切りは 2015 年 10 月 23 日である。
- ・ 2016 年度大会(九州)の開催期間は 2016 年 8 月 24 日(水)～26 日(金)で、研究集会は分散開催となる。原稿締め切りは 2016 年 4 月 5 日(火) 12 時である。
- ・ 2016 年度開始[若手奨励]特別研究委員会への応募について、応募締め切りは 10 月 23 日であり、応募資格は 2016 年 4 月 1 日時点で全員 40 歳以下であること。

■ 教育賞(教育業績)、大賞業績の候補者の推薦

各賞には環境工学本委員会の推薦が必要である。教育賞は九州大学名誉教授の藤本一壽先生が推薦されている。大賞は次回環境工学委員会(11 月 19 日)で推薦者を決定する。推薦者がいる場合は 11 月 9 日までに必要書類を提出する。

■ 卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦

音環境分野から推薦してもらうよう依頼した。10月13日に音環境運営委員会が開催されるため、そこで推薦者を決定し、10月15日までに連絡を受けることになっている。

■ 第29回環境工学連合講演会運営委員の推薦

環境工学分野で現3名のうち1名が入れ替わる。音環境分野から佐藤洋先生を講演者として選定するという報告があった。

■ 2015年度大会 AIJ デジタルライブラリに関するアンケート

大会の研究集会資料の公開について、これまでは、研究協議会資料は残部がなくなり次第に公開し、研究懇談会資料は大会終了から1年後に公開する、という方針であったが、統一した方が良いという意見が挙がり、いずれも大会終了から1年後に公開するという方針に変更した。

■ 2016年度大会（九州）について

以下の各事項について、締め切り日が報告された。

- ・ 細分類・細々分類の変更 ⇒ 11月20日（金）
- ・ OS の実施 ⇒ 11月20日（金）

>> 現在、OS が提案されているのは音環境1件、空気環境1件、建築設備2件、環境設計4件である。OS を実施する場合、11月9日（月）までに実施の可否を意思表示すること。

- ・ 研究協議会及び研究懇談会 ⇒ 11月20日（金）

- 研究協議会：環境シミュレーションと建築デザイン（九州支部提案）
- 研究懇談会：建築環境工学の国際的な展開と建築学会

>> 研究懇談会の実施については、無理してやらなくても良いのでは、という意見も挙げたが、環境工学本委員会の幹事の岩田先生が積極的にやる方向で調整中である。

- PD：「建築物の振動に関する居住性能評価指針」の改訂にむけて

■ シンポジウム実施報告・実施計画

第15回環境心理生理チュートリアルの実施報告があった。

■ 委員の委嘱

環境心理小委員会から東京工業大学の尹慶氏へ委員の委嘱があり、本委員会で承認された。

■ 環境工学メールマガジン掲載依頼

2015年7月27日に第15回環境心理生理チュートリアルのもメルマガ配布の依頼があった旨が報告された。

>> 感覚・知覚心理小委員会が開催するシンポジウムはメルマガ依頼がされていなかったため、多くの参加者を募るための一手段としてメルマガへの配信をしておく方が良い。

■ 2016年度予算配分

現時点での予算配分が報告された。予算執行率が100%となるように使用すること。

>> 現時点で、環境心理小委員会はほとんど予算が執行されていない状況であるので、年度末には執行率が100%となるよう計画する。

■ 大会若手優秀発表顕彰に対する意見

各運営委員会で実施している大会若手優秀発表顕彰について、空気環境運営委員会の一部の委員から「やめた方が良く、空気環境運営委員会だけでもやめたい」との意見が挙げられた。

3. 各小委員会の活動報告と次年度の活動計画案について

各小委員会の主査（主査欠席の場合は委員）から本年度の活動報告と2016年度の活動計画案について報告があった。

◎ 環境心理小委員会

本年度の活動報告と次年度の計画について、本小委員会主査の楨委員から報告があった。本年度の活動状況として、2015年6月に小委員会を開催した。そこで第1回公開研究会を実施し、活発な議論があり、大変盛り上がった。チュートリアル運営WGの活動として、9月7日に第15回チュートリアルを開催し、参加者は71名と大盛況であった。チュートリアルで講師として講演して頂いた小島先生の内容について、時間が足らず飛ばされたスライドが多かったので、次回小委員会（10月16日）で小島先生にご講演を頂き、第2回公開研究会として実施することになっている。環境心理研究手法WGでは、次年度に評価グリッド法の書籍の出版に向けて、その準備活動を行っている。文化と環境WGは2015年6月にWGを開催している。かわいいと建築に関する研究WGは季刊誌秋号を発行予定であり、主査が精力的に推進している。

次年度も、引き続き、傘下の各WGの活動をとりまとめていく形式で小委員会を開催していく予定である。

>> 活動計画案について、小委員会傘下の各WGの活動内容も簡潔に加える方がよい、と西名主査から意見が挙げられた。楨委員から、環境心理研究手法WGの次年度活動計画については、評価グリッド法の本を出版したいので構成を考えるつもりであるが、活動計画案には出版計画までは記載しないと報告があった。

◎ 社会と環境心理小委員会

本年度の活動報告と次年度の計画について、本小委員会主査の宗方委員から報告があった。本年度の活動状況として、2015年5月に第1回小委員会を開催し、そこで研究会を実施し、松原委員に講演して頂いた。2015年10月16日に辻村委員、11月に若林氏、12月に熊本大学の川井先生に講演を依頼しており、小委員会の開催に伴い第2回～第4回の研究会を実施する。さらに年明けに小委員会を開催し、本年度の総括とする予定である。

次年度の活動計画は、研究会の内容等を整理し、社会と環境心理の全体像をまとめていくような活動を行う。引き続き研究会を開催するので、講演を聴きたいテーマがあればその要望に対応していく。

◎ 感覚・知覚心理小委員会

本年度の活動報告と次年度の計画について、本小委員会主査の土田委員が欠席であったため、西名主査から報告があった。本年度の活動状況として、2015年10月10日と17日にシンポジウムを開催するが、現時点で10日の参加申し込みがあまり芳しくないため、宣伝を強化する必要がある。17日は書籍出版と関連付けたシンポジウムであり、なんとか出版が間に合った。小委員の開催は、2015年12月12日、2016年2月27日に小委員会を開催

する予定であり、3名の方に研究紹介を行って頂き、研究会として実施することになっている。傘下に2つのWGが設置されているが、これらはそれぞれ独自の活動を行っているわけではなく、小委員会が委員の定員を超えるため、委員を増やす受け皿としてWGが設置されている。従って、WGの開催は小委員会と同時に実施している。

次年度の活動計画も、基本的には本年度と同様の活動を継続していくことになる。

>> 活動計画案の書類の設置期間が2年になっている、という指摘が挙がった。これに対して、松原委員から、本小委員会で4年の設置期間を勧めたが、主査の土田先生の意向で設置期間は2年となった、と説明があった。

※ 各小委員会の活動成果報告、次年度活動計画については、本運営委員会でとりまとめて、西名主査から事務局へ提出する。

4. 催し物開催のHPへの掲載と環境心理研究者MLの作成について

環境心理生理運営委員会HPを管理している辻村委員から、各小委員会やWGで催し物を開催する場合に、辻村委員にメールで開催情報を伝えると、HPにその情報を掲載することができるので、宣伝のためにHPを利用して頂きたい、と報告があった。

催し物の開催の宣伝等の情報共有のためには、以前に東大サーバーを利用して宗方委員が作成されていた環境心理研究者MLのようなものがあると便利である、という意見が挙がり、以前の環境心理研究者MLのようなものを復活させてはどうか、という案が挙がった。これについては出席していた全委員の同意を得た。このMLの作成に関して、以前の環境心理研究者MLを作成・管理していた宗方委員に運営委員会を通してお願いしたところ、ご快諾頂いた。

F. 【審議事項】

1. 2015年度大会における若手優秀発表の受賞候補者の審査

大会若手優秀発表の受賞候補者について、西名主査が作成された2015年度大会若手優秀発表の審査結果一覧表を参考に、運営委員会で審議が行われた。西名主査から、審査結果表の得点の算出方法について説明があった。審査結果◎、○、△にそれぞれ3点、2点、1点を割り振り、その合計点を投票者数で割って平均点を算出している。この平均点の高い順で順位をつけている。

この審査結果に基づいて、出席者全員で様々な意見を交わし、非常に慎重な審議を行った結果、以下の上位4名を最終的な受賞候補者とする事で合意に至った。

-
- ・40007 小崎美希 「トイレの環境と印象評価に関する研究」
 - ・40012 河村友 「街路空間の誘引効果に関する研究 商業地の曲がり角で歩行者が着目する空間構成要素」
 - ・40014 世良瞳子 「高齢者の中高強度歩行活動量を規定するコミュニティの要因分析」
 - ・40020 伊丹弘美 「公共図書館の評価に関する研究—その4 図書館に対する印象・態度における原体験の影響—」
-

また、次年度以降のために、本年度に行った審議内容を踏まえて、審議の中で挙がった

意見を以下にまとめる。

- 審査方法については本年度のやり方で良いと思う。光環境運営委員会では各発表に対して審査員が3名ずつしか割り当てられていないので、その3名の評価でどうバランスを取ればよいか悩んでいる。(宗方委員)
- 環境設計運営委員会では、若手優秀発表の採点者は1名がいればよい、という考え方である。本運営委員会のように多くの発表を審査することが課せられると、大会の他の発表を聴講するのに支障があるので、審査員を半減しても良いと思う。(松原委員)
- 基本的に、心理生理分野の講演発表が行われている会場にずっといる人は審査員として評価すればよいのでは、と考えているが、やはり疲れてしまう部分もある。本年度は事前に予定をお聞きしたが、次年度はもう少しプログラム全体を考え、シフトを決めても良さそう。(西名主査)
- 昨年度、本年度と実施して、だんだん収斂しそうに思っている。昨年度よりも本年度は評価が落ち着いてきたように感じる。次年度くらいまでは多数の審査員で実施すると、審査する側も大体の雰囲気がつかめてくるのではないか。「ある程度的人数で審査を実施しましょう」は心理生理分野のコンセンサスだと思うので、あとは「何人くらいを確保しましょう」を決めておいて、それを超えるようであれば間引いても良さそうである。(大井委員)
- 本年度は15人に依頼したが、次年度は審査員の総数を増やせるなら増やしてもよいと思う。(西名主査)
- 次年度はプログラムを勘案してもらった上で、審査員は最低5人程度いればよい、という感じでやれば良いかもしれない。(西名主査)

2. 2016年度大会OS及び研究発表部門の細分類・細々分類に関する審議

2016年度建築学会大会のOSの開催について議論を行った。まず、OSの開催の有無について、開催することで合意に至った。そこで、OSテーマについて議論した結果、生理指標系で何かテーマを立てられないか、という意見が挙がり、テーマ案として「生理的計測の応用と可能性(仮)」という意見が挙がった。そこで、本運営委員会では、ひとまずこの方向性で今後審議を深めていくことで合意し、候補者の選定及び実施の可能性について、引き続きML審議を行うこととなった。

具体的なテーマ案及び実施内容については、感覚・知覚心理小委員会で叩き台を提案する、と意思表示が西名主査からあり、西名主査が感覚・知覚小委員会主査の土田委員と相談し、タイトル、主旨の原案を作成することとなった。運営委員会から事務局への書類提出の締め切りは2015年11月9日(月)である。

研究発表部門の細分類・細々分類については、本運営委員会からは特に変更が必要という意見は挙がらなかった。

3. 大賞、文化賞の候補者について

大賞、文化賞の候補者について、本運営委員会から推薦者を議論した。文化賞については、AIJ会員ではなく建築界に貢献した人が対象であり、推薦者に関して特に意見が挙がらなかったため、本運営委員会からは推薦する該当者なし、ということになった。

4. 若手研究委員会への応募について

若手研究委員会は委員が申請時に40歳以下であることが応募条件となっている。西名主査から、この若手研究委員会への積極的な応募の依頼があり、各小委員会で話題にして議論して頂きたい、とお願いがあった。若手研究委員会への応募に関して、議論した内容・挙げた意見を以下にまとめる。

- 例えば、東西の研究者の交流を目的に、若手研究者が集まって相互に交流する、というスタンスでも良いと思う。(西名主査)
- 感覚・知覚心理小委員会では土田主査が若手研究者に声掛けし、委員に加わって頂いているようなので、期待したい。(西名主査)
- 熱環境での若手奨励に参加した経緯として、高田先生が久野先生から出すことを求められた一本釣りのような形であった。富山のAIJ大会で、はじめ4人くらいでテーマを決め、その後のメンバーは高田先生の知り合いで広げていった。(長野委員)
- 心理生理分野では、コレスポンディングサブワーキングのように、過去に交流を目的に実施されたことがある。(宗方委員)
- 研究テーマとして、非常時対応、震災が起きたときに何をやるのか、そういうときにどんな調査をやるか、といったことを考えて欲しい。(槇委員)
- 若手研究委員会の募集は10月23日が締切りなので、本年度の応募ということではなく、次年度に向けた長期スパンで考えて欲しい。(西名主査)

G. 【次回の開催日程】

2015年11月19日(木) 17:30~19:30

以上